



豊岡市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成29年3月 ■ 人口：82,624人 ■ 面積：698km²
■ 担当課：豊岡市委員会教育総務課（平成30年3月現在）



コウノトリが空を舞う豊岡市には、多様な環境のもとで生み出され、伝えられてきた多様な歴史文化遺産が数多く残されている。しかし、これらは担い手不足などさまざまな課題を抱えている。豊岡市歴史文化基本構想は、世界に誇る豊岡市の歴史文化遺産を守り、活かすためのマスタープランである。

5 歴史文化を表す つのキーワード

日本海とアメノヒボコ伝承、城崎温泉、円山川と暮らし
城と町並みと街道、神鍋高原をめぐる文化

課題

- ・ 少子高齢化、生活様式の変化
- ・ 歴史文化遺産に接する場の整備
- ・ 未指定の文化遺産の保護
- ・ 所有者、市民、行政等のさらなる連携

保存活用方針

- 【方針1】 発見・学びを楽しむ
- 【方針2】 楽しみながら、ともに育む
- 【方針3】 活かす楽しみを高め、広げる

保存活用のための取り組み

「ふるさと教育」との連携

“地域コミュニティ組織”に対応する区域を、「豊岡の宝もの」を活かしたまちづくりの基礎単位としてとらえ、小中学校での「ふるさと教育」と連携している。



「豊岡の宝もの」を活かした取り組み

市民が「伝えたい」と考える歴史文化遺産（「豊岡の宝もの」）とその物語を活かした取り組みを展開している。例えば、「とよおか市民学芸員」を養成し、特に若年層・子育て世代が「豊岡の宝もの」の保護・活用を自発的に行う土壌づくりを進めている。



町並みの保存・整備

出石重要伝統的建造物群保存地区をはじめ、城崎温泉街や豊岡震災復興建築群など、市内各地に残る特徴的な町並みの保存・活用に努める。



歴史博物館の充実

豊岡市の歴史文化遺産を総合的に保存・活用する拠点とするため、さらなる充実を図る。より身近な館にするため展示方法の工夫や、若い世代が学習の成果を発表できる場の提供などを通して、来館者の増加につなげる。



関連文化財群



コウノトリ



中嶋神社本殿



織まわし



入佐山3号墳出土鏡

豊岡市にはさまざまな歴史文化遺産、「豊岡の宝もの」が残されている。これらは単体で残されたものではなく、地域や歴史など、さまざまな要素のなかで形成され、受け継がれてきたものである。

そこで、「豊岡の宝もの」を相互の関連をもとに織りなした7つの「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語」を設けた。この物語は、地域への誇りを育み、活かすために活用していく。

ストーリー

- 1 アメノヒボコの伝承
- 2 日本海の恵みと人々
- 3 城崎温泉
- 4 円山川と暮らし
- 5 城と町並み
- 6 神鍋高原をめぐる文化
- 7 京街道を行き交う文物

策定後の成果（見込まれる効果）

① 「れきしまつり」の開催

若年層や子育て世代に歴史文化に親しんでもらうため「れきしまつり」や「ミュージアム出前授業」を開催している。「れきしまつり」では、古代体験などをきっかけに、多くの子どもたちが歴史に興味を持ちはじめた。「ミュージアム出前授業」では、本物の出土資料に触れ、教科書だけでは知り得ない記憶に残る授業を進めている。



② 歴史博物館リニューアル

親しみやすく、賑いのある「歴史文化遺産を活用する拠点施設」にするため、歴史博物館の外構工事や展示室のリニューアルを進めている。また「豊岡の宝もの」を地域の方とともに調査し、その成果を紹介する企画展を定期的に開催している。行政と地域との連携が増し、歴史文化遺産への関心が高まっている。



③ 「とよおか市民学芸員」誕生

3か年にわたる養成講座を経て、「とよおか市民学芸員」9名が誕生した。「とよおか市民学芸員」は、歴史博物館でのボランティア活動をはじめ、地域に残る歴史文化遺産を保護・活用するさまざまな場面で活躍している。現在、第2期生を養成中である。今後も歴史文化遺産を守り、活かす活動につなげる人材を育成していく。

